



いのちの日便り

「いのちの根」

8月18日（木）の「一中いのちの日」は、「いのちの根」について校長先生からお話していただきました。コロナ感染拡大のため、放送で実施されましたが、子供たちは真剣に耳を傾け、深く考えようとすることができました。

以下に、生徒の感想の一部を紹介します。

～ 生徒のみなさんの感想より ～

- いのちの根は、自分自身が頑張った分だけ深く太く伸び、何があってもふんばれる根を張っていくことだと思った。
(1年2組 さん)
- 「やらなかった」「やれなかった」という意味は違うし、自分はこれからどう行動するか、考えさせられる詩だと思った。
(1年2組 さん)
- 学校にあるひまわりの花の意味を知ることができてよかったです。これからは大切に気にかけていきたいです。私にとって「いのちの根」とは、だれも抜くことのできない強い心だと思います。長い人生の中で、いのちの根が深くなるのは、こんな時なんだと思いました。
(1年5組 さん)
- 校長先生の講話を聞いて、蔵王地蔵尊の由来や樹氷を作るアオモリトドマツの現状、ひまわりの絆プロジェクトのことがわかりました。自分にとって「いのちの根」は、笑顔だと思います。笑えば楽しい気持ちになり、それで根を伸ばしていけるのではないかと思います。
(1年5組 さん)
- ひまわりの話で、幼稚園で育てていたひまわりの種を持ち帰って、自宅で育てた後に警察官さんにひまわりの種を託すことを今も続けていて、この種は大切に育てようという気持ちが伝わってきた。
(2年4組 さん)
- 蔵王地蔵尊が子どもたちのためを思って建てられているということに感動した。いのちの根は、人生の土台みたいでどんなことでも、我慢して頑張っでこそできるようなものだと思います。
(2年4組 さん)

- ・校長先生の講話を聞いて、今の自分の人生、うまくいかないことや辛いこと、苦しいことがあっても、それは自分に与えられた特別な試練なんだと捉え、その試練を絶対に乗り越えられるように努力したいです。また、自分にとっての「いのちの根」は努力によって深くなるものだと思います。
(2年5組 さん)
- ・私は「いのちの根」はいろんな経験によって深く張っていく根だと思いました。苦手なことや嫌なことも深く「いのちの根」を張るために必要なものだと思うので、いろんな経験をしていきたいです。
(2年5組 さん)
- ・僕はいのちの根は心の強さだと思いました。これからの受験勉強で心がくじけないように、いのちの根が深くなるようにしていきたいです。
(3年4組 さん)
- ・私は、「いのちの根」とは人としての本質だと思う。つらい時を乗り越えることで、人として成熟してよくなっていくという意味なのではないかと思った。受験のとき後悔しないよう、「けれど」「そのうち」ではなく、勉強から逃げずに頑張りたい。
(3年4組 さん)
- ・校長先生が最後におっしゃっていた「夢はでっかく根は深く」という言葉は、夢は大きく持ち、そのためにやれることをたくさんすれば未来の自分に返ってくる、ということだと思ったので、自分も夢のために根を深くしておきたいです。
(3年5組 さん)
- ・私にとってのいのちの根は、愛情だと思います。自分がどれだけ弱くても誰かのために強くなりたいと願ったそのときに、いのちの根が深くなると思いました。私も誰かのために強くなる、そんな人間になりたいです。
(3年5組 さん)

長い人生にはなあ
 どんなに避けようとしても
 どうしても通らなければならぬ
 道というものがあるんだな

そんなときは
 その道を黙って歩くことだな
 愚痴や弱音を吐かないでな

黙って歩くんだよただ黙って
 涙なんか見せちゃダメだぜ

そしてなあ その時なんだよ
 人間としての いのちの根が
 ふかくなるのは

「道」 書家・詩人 相田 みつを



一中のひまわり

・次の一中いのちの日は9月5日(月)、体育祭の振り返り、ハートフルメッセージの交換です。